

# 行き詰まりの自民党政治追隨の姿勢改め、 市民が安心して暮らせるまちづくりを

9月24日に神戸市会本会議がひらかれました。

岸田政権は、「裏金」事件を契機に国民の怒りが広がり、退陣へと追い込まれました。これだけ深刻な行き詰まりを見せる国に追隨しているのが久元市政です。神戸市の人口が150万人を下回ったにもかかわらず、久元市長はこれまでの政策を見直すことなく、三宮巨大開発や神戸空港国際化におしみなく予算をつぎ込む一方で、水道料金・バス運賃の値上げ、王子公園プール廃止、公立幼稚園を統廃合しようとしています。これでは人口減少を「抑制」するどころか「加速」させます。朝倉えつ子議員と味口としゆき議員は、市民が安心して住み続けられる神戸の街の実現を求めて代表質疑をおこないました。

## 質疑項目

1. 都心・駅前再開発について
2. 済生会兵庫県病院の再編統合について
3. 学校給食の無償化について

神戸市では、郊外地域で空地・空家が増え、スーパーの撤退や市バスや民間バス路線の減便・廃止などが相次いでいます。高齢化も進み、交通難民・買い物難民が生まれています。久元市長は「数十年後廃虚化する可能性がある高

層タワーマンションは持続可能ではない」ことを理由に都心部のタワーマンションの建設を規制しています。朝倉議員は、タワマン規制だけでなく、オールドタウン化に直面している郊外地域の対策を強めるべきと質しました。

## 答弁ダイジェスト

**久元市長：**人口定着を図るため、移動販売などの支援をおこなってきた。

**朝倉議員：**北区など郊外には、市が開発を進めた大規模団地がある。5階建てでエレベーターもなく高齢者などは住みにくく、空き室も目立

つ。今暮らしている方が、安心して住み続けられるための施策が必要ではないか。

**今西副市長：**西神中央や名谷では駅前リノベーションを進めている。(郊外) 団地の戸建てから駅前に移ろうという傾向もみられるので、売却の支援もおこなっている。

## 朝倉議員が 代表質疑



**朝倉議員：**今の郊外団地が抱える問題に対応する方針をきちんと持つべきだ。

**今西副市長：**直ちにできるものばかりではない。計画的におこなっていく。

**朝倉議員：**北区では、スーパーが撤退しても、市は「事業者の判断」と冷たい対応だ。駅まで行く交通も減便廃止され、駅まで行くことさえままならない住民もいる。都

心が栄えて駅前がきれいになっても解消されない。

**今西副市長：**今住んでいる方が、その場でずっと(住み続ける)という施策では対応できない。

**朝倉議員：**市長が「郊外からの人口流出をとめる」と言うのなら、都心や駅前重点でなく、どこに住んでいても、安心して住み続けられるまちづくりこそ必要だ。

## 済生会兵庫県病院

### 市民の声聞いて「今の場所」で 存続できるよう支援を

国は自治体に病床削減を迫り、急性期病床を減らし続けています。神戸市でも済生会兵庫県病院と三田市民病院を再編統合し、病床数を100床から150床減らす計画を地域

住民不在のまま進めています。朝倉議員は、自身がおこなった病院利用者アンケート調査での声を紹介し、切実な声にこたえて統合移転は中止すべきと質しました。

## 答弁ダイジェスト

**朝倉議員：**アンケートでは、「統合移転は困る」という答えは78%、4割の方は「移転したら通えなくなる」と回答した。さらに、この計画を知らないという方までいた。もともと病院を誘致するために、市が藤原台の土地を確保し、済生会病院を中央区から北区へ誘致する際にも、市が相当な支援をしたとされてい

る。今の藤原台の場所にしたのは神戸市ではないのか。

**小原副市長：**戦後郊外の住宅開発が進み、人口の移動に合わせて藤原台に移転した。現在は人口減少局面だ。存続が必要というだけでは事業は成り立たない。

**朝倉議員：**人口減少だが、高齢化で医療ニーズは増えている。コロナの経験から、病床削減・病院統廃合を進める

政府への批判が現場からも大きくなり、厚労省でさえ「病床削減や統合ありきではない」やり方をとわざるを得なくなった。神戸市がサポートすれば、統合する必要は無い。医師不足は全国的な問題

だ。統合しても医師が増える確証もない。神戸市民にパブコメや説明会をきちんとおこなうべきだ。

**小原副市長：**三田市から統合計画が公表された後に住民説明会をおこなう予定だ。

**朝倉議員：**周知だけでなく、市民の声を受け止めるべきだ。「市民が声をあげても市政に届かない」「結局統合移転か」と市民から憤りや失望の声も寄せられている。済生会病院と三田市民病院をき

ちんと残し充実させることが、神戸市、三田市それぞれの市民の強い願いであり、行政の役割だ。済生会病院を今の場所で残すために支援を尽くし、統合移転の計画は撤回すべきだ。

# 教育現場に産業医の配置実現！ さらに教職員増員し労働環境の改善を

神戸市の、9月1日時点での教職員の欠員は、小学校で5人・中学校4人・特別支援学校4人と深刻です。また、多忙やストレスにより病気休職となっている職員は100人を超え、5年で1.5倍に増加しています。神戸市の教員アンケートでは、「メンタル不調を感じたことがある」教職員は2668名(65.1%)、「メン

タルクリニック等の医療機関にかかったことがある」教職員は625名(15.2%)と、教職員にとっても、子どもたちの教育環境を考えても、本当に深刻な実態を示しています。味口議員は、教職員の労働環境改善のために、教職員を抜本的に増やして少人数学級を実現するよう強く求めました。

味口議員が  
代表質疑



質疑  
項目

1. 教員不足の解消について
2. 王子公園再整備計画について
3. 水道料金・市バス運賃の値上げについて

と控訴したが、総合教育会議で教育委員会の産業医が0名であることが明らかになった。「産業医0名」でどうやって「安全配慮義務を果たしてきた」と言えるのか。

**高田教員委員会事務局：**委託の産業医が1名いる。

**味口議員：**委員会で事務局長は「産業保健体制は非常に脆弱である」「現状で良いとは毛頭考えていない」と答弁していたではないか。

**福本教育長：**現場で受診をすすめる声かけをずっとしている。

**味口議員：**声かけでメンタ

ルヘルス対策ができるなら医師はいらない。市長が人口減少を理由に職員を増やさなかったために、委託の産業医が1名しか配置されていなかった。予算をつけて配置すべきではないのか。

**久元市長：**できるだけ早く産業医や保健師を確保したい。

**味口議員：**産業医を配置しただけではメンタルヘルス対策が進むわけではない。国基準ではなく、少人数学級を実現させ、一人ひとりの教員の負担を減らし、教員が志を保てる環境をつくるべきだ。

しています。味口議員は「この元凶になっているのは、都市公園である王子公園を大学に切り売りすることだ」と指摘し、王子公園再整備計画を

中止すべきと質しました。久元市長は、「プールの解体も大学への譲渡契約も速やかに進める」と冷たい答弁に終始しました。

## 答弁ダイジェスト

**福本教育長：**多額の財政負担と教員不足の問題からも課題が多い。

**味口議員：**1人の教師が対応する児童・生徒が多すぎるのが問題だ。なぜ兵庫県が実施している中学校の35人学級編成すら導入せずに、国基準のままなのか。9月の委員会では教育長も「OECD並みの20人台になればという考えに全く異議はない」と答弁している。異議がないなら市長にかけあってやるべきではないか。

**福本教育長：**財政的に許されるのであれば一人当たりの教員が持つ生徒の数を減らすことは望ましいと思っている。

**味口議員：**市長も教員の劣悪な働く環境の改善に「あらゆることをやっていかなければならない」と答弁した。実施すべきだ。

**小原副市長：**国の責任でおこなうものだから、国から配当される定数に基づいて配置している。

**味口議員：**女性休職者の4人に1人が採用3年以内に休職している。2020年に教育委員会職員が自死された問題は、神戸地裁で「直ちに産業医への診察を受けさせるなどの措置をとるべき義務があったにもかかわらず怠った」との判決が出された。神戸市は「安全配慮義務を果たしてき

## 9万の署名の重さ受け止め、 王子公園再整備計画は中止すべき

「みんなの王子公園&動物園の会」は、9月に王子プールの存続を求める署名1万2729人分を神戸市に提出しました。これまでの王子公園再整備の中止を求める署名と合わせると9万人を超えまし

た。しかし、神戸市は74年間愛されてきた王子プールの解体をはじめました。さらに今後サブグラウンドや相撲場の廃止、テニスコートの縮小など、市民や子どもたちの大切なスポーツ施設をなくそうと

ぜひ傍聴にお越しください

### 森本 真議員が総括質疑

日時 10月9日(水) 13時45分頃から

場所 市議会本会議場

ご視聴はこちらからご覧ください

委員会の進行状況によって時間が大きく前後する可能性がありますので留意ください。